スキー回想録　診療所と西医体・全医体・国体

昭和41年卒　東條俊二

スキーに関しては、昭和39卒の三宅康三先生（大舘鳳鳴高校出身）が今風に言えばスキーアスリートで、スキー技術やレーステクニックはすべて彼から教わり、結果西医体総合優勝、準優勝、国体出場、高松宮杯西日本スキー競技会出場等当時の奈良医大の部活動のなかでは際立った成績を納めました。 西医体優勝の年には東日本優勝の北大と日本一を決めるべくスキー全国医学生大会をしましたが、完敗の結果でした。

診療所は地元の我々が教わっていたスキー教師と共同で、野沢温泉スキー場ゲレンデに木造二階建ての小屋を建て、一階はスキー教師側が使用して食堂やスキーレンタルに、二階は我々部員が一泊300円で宿泊食事付きで当初、始めました。

建設設備資金は我々が負担とゆうことで、50万円弱を先輩諸氏からお願いすべく私が走り回り、遠くは小樽に開業の先生宅まで行ったもんです。しかし数年は続いたようですが、設備不十分や新しく入部の連中には不評であったようで、われわれが卒業後は自然消滅したようです。

あれだけ苦労して走り回った私としては、残念に思っております。我々の卒業後はスキー部の競技会の成績もいまいちのようです。スキー場の診療所も遠方の長野県までシーズンを埋めるだけの医師のボランチアの確保も難しく、数年で終わってしまったようです。

奈良県立医科大

ランドロッ
FFEE SNACK

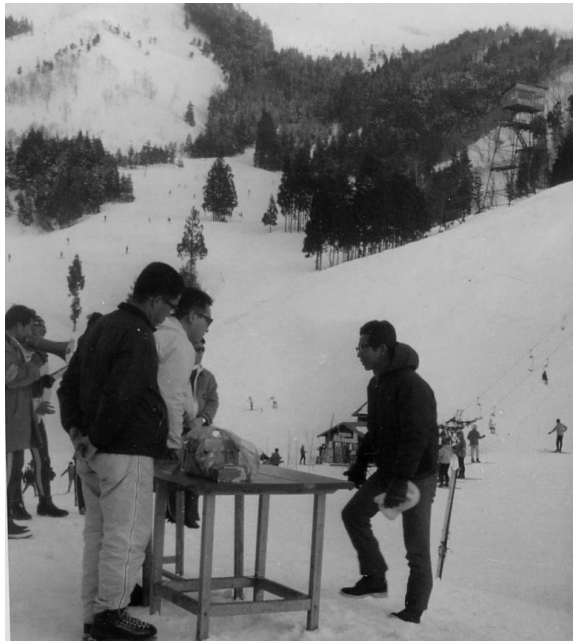
106

西医体スキー大会

1961 年

写真提供 東條俊二氏(S41 年卒)

西医体スキー　1962年



写真提供　東條俊二氏(S41年卒)

西医体　スキー　1963年

賞状

第三位 奈良県立医科大学 東条俊二

右は第十七回西日本医科学生総合体育冬期大会に於いて頭書の成績を得られたので茲に之を賞します

昭和四十五年 月 日

第十七回西日本医科学生総合体育冬期大会長 森茂樹

鳥取大学医学部長 綾部正大

賞状

第一位 奈良県立医科大学 東条俊二

右は第十七回西日本医科学生総合体育冬期大会に於いて頭書の成績を得られたので茲に之を賞します

昭和四十五年 月 日

第十七回西日本医科学生総合体育冬期大会長 森茂樹

鳥取大学医学部長 綾部正大

賞状

総合第一位 奈良県立医科大学

右は第十七回西日本医科学生総合体育冬期大会に於いて頭書の成績を得られたので茲に之を賞します

昭和四十五年 月 日

第十七回西日本医科学生総合体育冬期大会長 森茂樹

鳥取大学医学部長 綾部正大

第十七回 西医体冬期大会

スキー部優勝

本年二月に大山で行われた第十七回西医体冬季大会（鳥取大委託主管）において、本学スキー部は総合優勝を成し遂げた。毎年二位以下には絶対ならないが優勝も惜しくも逸していたスキー部は勿論、我々全学生にとつてもこの上ない喜びである。この紙面上において、スキー部マネジャーにこの大会について振り返つていただく事にする。

雄大な大山をバックに今年もやつて来た西医体スキ大会。昨年は今来まれな強力メンバーで六種目中四種目を征服しながらも惜しくも二位に終つた。汗の結晶ともいえる優勝カップを返還しつつ今年も再び我々の手に戻つてくる様頑張ろうと心に誓つたのである。

二月二十日午後、耐久競技が中の原スキー場を発着点とする山麓折り返し8KMコース2周16KMの前半ダラの下り後半起伏の多い変りの林間コースで行われたが、天候快晴の為、スキーの滑らぬべタ雪になり選手にとり苦しい試合となつた。トップの一年生に腰は完れたコースを新人らしからぬテクニックでよく頑張り十六位、同じく一年の二宮は強靭な体力を駆使して十五位、優勝の両高い奈良県のエース東さは国体帰りの素晴らしいテクニックと馬力でよくとばしたが、後半スキーが滑らず三位に留つた。

結局一日目は東条選手の得点六点のみで大阪医大の十五・五点に大きく差をつけられて終わつた。

明けて二十一日、昨夜来の新雪がベタ雪の上を被い、ワックステクニックの偉力を発揮するのにもつてこいの、だが一つ間違えば大きなタイム、ロスになるむずかしいコンディションとなつた。

午前の回転競技において、昨年二種目に入賞した小木選手は一本目七位ながらも二本目転倒して入賞を逃した。第一シードの谷掛選手は一本目十位だつたが二本目より頑張り七位に喰込んで貴重な二点を獲得した。ベテラン中野選手は、一本目二本目共、平均したスラロームでよくまとめ優勝の栄冠を成し遂げた。意気上つた所で午後の部、長距離レースが翌日と同じコース8KMで行われた。

昨年の長距離・耐久優勝者松本選手は慣熟疲れと練習不足にもかかわらず八位に入賞、続いて東条選手は強いパネとうまいストックワークで最初からよくとばし、午前に続いて優勝。この日二十一点を追加して合計二十七点となり、明日の結果如何によつては念願の総合優勝も夢ではなくなつた。

大会最終日、雪深い大山の奥ふところ元谷コースで滑降競技が行われたが、この日の結果に優勝がかかつた為か、かたくなつて結果はあまり好ましいものではなかつた。特に中野選手は、スタート直前ガスに包まれてコースが判らずコース外の新雪につつ込み転倒して脛骨骨折という不運にみまわれた。午前の競技は入賞者なしといつ結果で、昨年同様、優勝は阪大ムのせり合いになつた。

午後のリレーにおいて、本学はベテラン長尾選手を第一走者に、内藤選手、松本選手、アンカーの東条選手とつないでよく奮闘し四位に入つた。この結果三十一点をあげ、毎年二位三位に甘んじて果せなかつた優勝を六年目に再び手中にする事ができた。

耐久競技　三位　東条⑮
回転〃　一位　中野⑮
　　七位　谷掛④
長距離〃　一位　東条⑮
　　八位　松本②
リレー　四位　奈医大チーム

（主将談）

今度の優勝はチームワークの勝利である。昨年惜しくも二位に甘んじた部が今年こそ絶対優勝しようと全員一団となつて大山スキー場で奮闘した結果、優勝できた事は非常にうれしく思います。

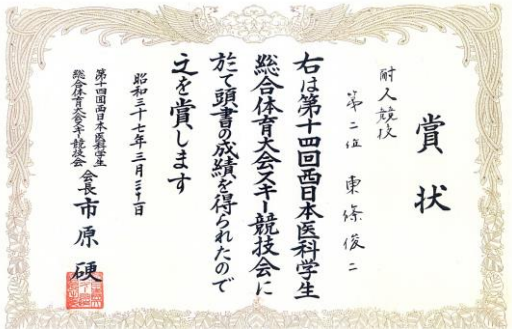
今年は昨年から見れば戦力は多少落ちてはいたが、チームの和に於ては以前に見られないものがあつた事が優勝の一因であつた事は間違いない。来年も練習量とチームワークで優勝の栄冠を勝ちとりたいと思います。

夏季大会および秋季大会における各部の御健闘を祈つております

総合優勝の本学チーム

スキー部の栄光

19650214　大山、西医体優勝



賞状

耐人競技 第二位 東條俊二

右は第十四回西日本医科学生総合体育大会スキー競技会に於て頭書の成績を得られたので之を賞します

昭和三十七年三月三十日

第十四回西日本医科学生総合体育大会冬期競技会 会長 市原 硬

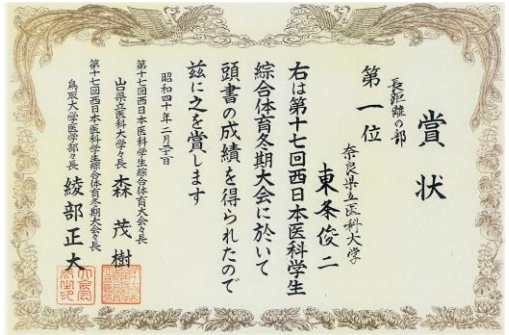
賞状

長距離競技 第三位 東條俊二

右は第十四回西日本医科学生総合体育大会スキー競技会に於て頭書の成績を得られたので之を賞します

昭和三十七年三月三十日

第十四回西日本医科学生総合体育大会冬期競技会 会長 市原 硬



賞状

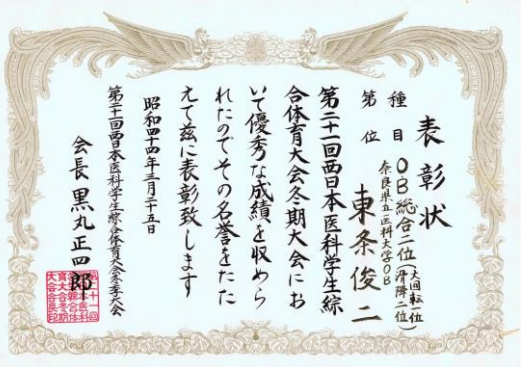
長距離の部 第一位 奈良県立医科大学 東条俊二

右は第十七回西日本医科学生総合体育冬期大会に於て頭書の成績を得られたので茲に之を賞します

昭和四十年二月二十日

第十七回西日本医科学生総合体育大会冬期大会会長 山梨県医科大学学長 森 茂樹

第十七回西日本医科学生総合体育大会冬期大会会長 鳥取大学医学部学長 綾部正大



表彰状

種目 OB総合二位（大回転一位 滑降二位）

第位 奈良県立医科大学OB 東条俊二

第二十回西日本医科学生総合体育大会冬期大会において優秀な成績を収められたのでその名誉をたたえて茲に表彰致します

昭和四十四年三月二十五日

第二十回西日本医科学生総合体育大会冬期大会 会長 黒丸正四郎

表彰状

第4位 継走男子（奈良県チーム）

種目 松田忠 内藤雅敏 松本直孝 東條俊二

高松宮杯第6回西日本スキー競技大会においてよくスポーツの精華を発揮し優秀な成績を収められたのでその名與をたたえてこれを表彰します

昭和39年1月21日

高松宮杯第6回西日本スキー競技大会

会長 鵜崎多一

奈良医大新聞 昭和37年5月7日（月曜日）

スキー部、綜合二位に入賞

三月二十八日から三日間、八方尾根スキー場に於いて行なわれた第十四回、西日本医科学生冬季大会に於いて、本学スキー部は期待に応えて綜合第二位の成績をおさめた。

曽根の様様を、スキー部マネージャー船内正恒君(3)に回顧してもらうことにする。

種々の事情で会場が狭れた事もあつて、開催地は余くの雪不足、特に(ノルディク（長距離・耐久）に於ては最悪のコンディション。一時はその運営さえあやぶまれた程だつたが、主管の和歌山医大の努力と地元関係者の協力を得て、大会は成功裏に運営された。大会第一日は開会式、次いで選手会、翌二十九日、大会第二日目は、午前九時から長距離、午後一時から回転の各競技が行われた。定刻長距離第一走者出走相図のホイッスルで鵜崎の幕は切つて落された。コースは全長七粁、残雪を縫つて蛇行した起伏に乏しいコースだつた。アルペン陣は、応援の為に夫々各地点に分散、私もストップウオッチ片手に、二粁地点に立つた選手は一人ずつ三十秒間隔でスタート。間もなくゼッケン「30」我がホープ東条選手（昨年11位）の元気な姿が見えた。

練習で鍛え上げた力強いパスカングで、上り気味のコースをクングン押して来る。既に二走者を抜き去り「26」番出走の阪大草石選手（昨年5位）に二十秒つめ、「25」番出走の金沢大藤雅選手（昨年4位）を、私の目の前で抜き去つた続いてゼッケン「39」堀内選手。

持ち前の美しいフォームで、これも既に三走者を抜いている。更にゼッケン「46」の長崎選手（昨年7位）が練習不足とは言えさすがに三つ目の坂を上り切つた。

写真は左から田北、東条、三宅堀内、長崎、一人おいて中野、谷口、船内の選手諸君

堀内選手の猛追もわずかに及ばず、二位に止まつたが、この種目で最高の9点をあげた。続いて当日午後行われた回転競技に於ても、一昨年度の三種目優勝者三宅選手が一本目、二本目共、断然他を寄せつけぬ満腹なスラロームで優勝。7点を上げた。

回種目で進境著しい谷掛選手が、二本目飛ばしすぎて入賞を逸したのが惜しまれた。結局この日、計16点を上げ、二位の昨年優勝校金沢大に、大きく6点の差をつけ、宿願の綜合優勝に向つて絶対的優位に立つた。翌大会二日目は午前九時から大回転、午後一時から耐久の二種目。はたして、金沢の選手陣の厚さに、ものを言わせた捨て身の結り。大回転、競技の優勝候補の筆頭、三宅選手が、回転外足を固い雪にとられ、ポールをひつかけて大きく転倒する一大番狂わせもあつて、逆にこの種目、大量11点をあげた金沢大に一気にリードをうばわれた。期待の中野選手の健闘も空しかつた。これに奮起したノルディク陣は、耐久競技14粁に於て、最後まで予断を許さぬ壮烈な接戦を演じ、又あも東条選手二位、堀内選手三位に入賞。9点をあげ計25点、この日、21点をあげ、31点の金沢に続いた。大会最終日、午前滑降、午後リレーこの二種目に最後の希望を託して金沢陣に立ち向つた。この回種目に勝てば、綜合優勝である。滑降競技。三宅選手の猛烈なスピードに乗つた豪快な滑降。ゴール前の急斜面をコースの鋭角を取つて真一文字に突つ込むスピードは、百粁を飛した。そのままゴールへあわや衝突なったかと思つた次の瞬間、会場のマイクは彼の失格を告げていた。不運、ベテランにしてあろうことか、コース前半の緩斜面の制限旗を外したというのである。我々は疲れた。しかし最後一分以上離めたが、わずか二秒は尾選手は練習不足をおして健闘よ

尚、二位に迫つて堀内選手力走してニ位に出、更に二位阪大との差を、ゴ。アンカー三年選手力走してニ位を上げて闘つた。大会最後にはおよそ恵まれぬ地にありながら、スキーを始めてわずか二年にしてよく上位入賞の東条、堀内両君の偉業はどこに特筆に値するものであろう。

綜合成績		
第一位	金沢大医学部	四十二点
第二位	奈良医大	三十一点
第三位	大阪大医学部	二十一点
第四位	大阪医大	十一点

賞状

総合 第一位 奈良県立医科大学

右は第十七回西日本医科学生綜合体育冬期大会に於いて頭書の成績を得られたので茲に之を賞します

昭和四十年二月二十日

第十七回西日本医科学生綜合体育大会々長 山口県立医科大学々長 森 茂樹

第十七回西日本医科学生綜合体育冬期大会々長 鳥取大学医学部々長 綾部正大

賞状

継走の部 第四位 奈良県立医科大学

右は第十七回西日本医科学生綜合体育冬期大会に於いて頭書の成績を得られたので茲に之を賞します

昭和四十年二月二十日

第十七回西日本医科学生綜合体育大会々長 山口県立医科大学々長 森 茂樹

第十七回西日本医科学生綜合体育冬期大会々長 鳥取大学医学部々長 綾部正大

表彰状

種目 長距離OB戦 第二位

第 位

奈良県立医科大学OB 東條俊二

第20回西日本医科学生綜合体育大会冬季大会においてよくスポーツの精華を発揮し優秀な成績を収められたのでその名誉をたたえて茲に表彰致します

昭和43年3月25日

第20回西日本医科学生綜合体育大会冬季大会 会長 増原建二

賞状

耐久の部 第三位 奈良県立医科大学 東条俊二

右は第十七回西日本医科学生綜合体育冬期大会に於いて頭書の成績を得られたので茲に之を賞します

昭和四十年二月二十日

第十七回西日本医科学生綜合体育大会々長 山口県立医科大学々長 森 茂樹

第十七回西日本医科学生綜合体育冬期大会々長 鳥取大学医学部々長 綾部正大

賞状

耐久競技四位 奈良医科大学 東条俊二

右は第十六回西日本医科学生総合体育大会冬季大会に於て頭書の成績を得られたので之を賞します

昭和三十九年三月三十一日

第十六回西日本医科学生総合体育大会冬季大会々長 名古屋大学医学部長 神田善吾

賞状

長距離競技二位 奈良医科大学 東条俊二

右は第十六回西日本医科学生総合体育大会冬季大会に於て頭書の成績を得られたので之を賞します

昭和三十九年三月三十一日

第十六回西日本医科学生総合体育大会冬季大会々長 名古屋大学医学部長 神田善吾